

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあつては名称) 水島エルエヌジー株式会社	住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒 712-8071 倉敷市水島海岸通 4 丁目 2 番地
----	-----------------------------	----	---

本票作成 部署名：オペレーション・技術部

主たる業種	分類コード	34	業種名：ガス業
-------	-------	----	---------

事業の概要

- ・LNGの受入、貯蔵、気化およびガス送出事業（年間取扱量100万t）
- ・基地増設工事が完了し、平成23年4月より稼働開始

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	水島LNG基地	倉敷市水島海岸通 4 丁目 2 番地

特定事業者の該当要件

①燃料等原油換算1,500kℓ以上 ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 ③CO₂換算3,000t以上

(●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)

温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 元 年度)	(令和 2)年度排出量	目標年度 (令和 6 年度)
	22,543 t CO ₂	19,667 t CO ₂	21,416 t CO ₂

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和 2)年度排出量
	①	水島LNG基地	19,667 t CO ₂
		t CO ₂	

削減目標の達成状況	計画期間：	令和 2 年度	～	令和 6 年度	(5 箇年度)
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(2) 年度削減実績	目標削減率	目標達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 3.1 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達	

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 ガス製造業	原単位当たり排出量		
		基準年度	(2) 年度	目標年度
		19.569 t CO ₂ /百万Nm ³	20.182 t CO ₂ /百万Nm ³	18.590 t CO ₂ /百万Nm ³

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和 2 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

令和2年度は、ボイルオフガス(BOG)再液化設備の新設および水島製油所へのBOG送気経路変更のための設備の新設により、BOG昇圧圧縮機(CP-7)の運転時間が前年対比で減少したことで、エネルギー使用量が低下し、結果CO₂排出量は減少した。
しかしながら、発電所の定期点検やコロナウイルスの蔓延に起因したLNG需要の減少により、生産数量(ガス製造量)は大幅に減少した。
以上のことから、昨年対比で原単位は悪化し、目標を達成できなかった。

【推進体制】

・省エネ法に基づくエネルギー管理体制のもと、エネルギー使用状況を確認している。
・当社はエネルギー管理を含めた運転保守管理をENEOS(株)へ業務委託しており、委託先であるENEOS(株)は1999年にISO14001を認証取得している。
・省エネを目的とした会議を関係者で定期的に行い、積極的に情報交換やアイテム発掘を行っている。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
水島LNG基地	(令和2年度実施分) ・2020年10月にボイルオフガス(BOG)再液化設備および水島製油所へのBOG送気経路変更のための設備を新設した。これにより、LNG受入期間外のBOG昇圧圧縮機(CP-7)の稼働時間を大幅に削減することが可能となり、半年間で約690 COE-kLの省エネに寄与した。 (今後実施予定分) ・LNG気化器出口配管の接続先付替え工事により、LNG気化器の運転方針を見直すことで、海水ポンプを一台停止し、効率的な操業を図る。 ・LNG船受入期間外だけでなくLNG船受入時にも、2020年10月に新設したBOG再液化設備と水島製油所へのBOG送気設備を利用することで、BOG昇圧圧縮機(CP-7)の運転時間を削減し、効率的な操業を図る。 ・海水ポンプをコーティングすることにより摩擦抵抗を軽減し、電動機の電力消費量を削減する。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

--